

《教育長メッセージ 第53号》

『あけましておめでとうございます』

平成29年、2017年、酉年の一年が始まりました。
みなさんひとりひとりにとって素晴らしい一年でありますように！

本年もどうぞよろしく願いいたします。



さて、みなさんはどのように新たな年を迎えられたのでしょうか。

私は、震災前は、毎年、母が住む宮城県南三陸町に帰省して過ごしていました。

実家に着くと、その日のうちに市場に行って、マグロとカレイを買い、夕方には、餅切りをしました。生ガキは親戚のおばさんがカキ工場から持ってきてくれました。私は、母の作る雑煮とカキ汁、カレイの煮つけが大好きで、それを楽しみにしていました。私が子どもの時から食べ慣れた、まさに「おふくろの味」で何杯も食べました。

母が仮設住宅で暮らすようになってからは、家族で泊まることはできなくなり、鳴子の温泉や実家の近くの旅館でお正月を過ごしました。

そして、今年は、神奈川で母といっしょに暮らすようになり、4回目のお正月となりました。

母といっしょに暮らすようになってからは、箱根や伊豆で大晦日からお正月を過ごしています。

元旦は、子どもの頃から、一年の始まりに、太平洋から昇る初日の出を拝むことが慣わしだったので、今年も伊豆の海で、水平線と東雲を越えて光を放つ、初日の出を見たところです。

初日の出を拝むときは、自分の願いや決意を、手を合わせながら、頭の中でぐるぐる唱えます。ですので、初詣に神社に行くということはありませんでした。

子どもの頃は、「お年玉がいっぱいもらえますように」とか、「お気に入りのおもちゃが手に入りますように」と願っていました。

平成29年1月1日、私が、初日の出に願ったことは、母と私の周りにいる人たち、家族、学校の教職員、子どもたち、教育委員会の職員の健康です。健康は、それぞれに予防や維持のための努力が必要ですが、時々、運命のようにどうしようもない力で奪われる場合があります。もし、それを神様が決めているのであれば、そんな悲しいことはしないでくださいと

願いました。

決意としては、新たな職に就いての3年目となり、任期の最終の年となり、子どもたちの今と将来のしあわせのための「えびなっ子しあわせプラン」3カ年計画のまとめの年となります。ぜひ、計画を完結したいと考えています。

その中でも、今年4月からの市内小中学校全校での「小中一貫教育の実施」については、これまで2年間をかけて有馬中学校区で研究し、校長先生方と話し合いを進めてきた取組です。いよいよ、子どもの成長を義務教育期間の9年間で一貫して支える教育体制がスタートします。そして、各中学校区の状況や特色を生かした取組を数年かけて充実していきたいと考えているところです。

自らの職の任期の最終年、自らの使命として、責任を持って成し遂げたいと決意しました。

いつもより長い冬休み、子どもたちは新たな年にあたり、どんな願いをしたのでしょうか。今年こそはと、何をがんばろうと思ったのでしょうか。教職員の仲間はどうでしょうか。みなさんはどうでしょうか。

それぞれの願いや夢が叶い、日々のガンバリが報われる一年であってほしいと思うのです。

次回は、「理想の学校」について、私の思いや考えを述べてみたいと思います。